

帰国年の明治三十九年十二月二十六日付で本校教授となった。

② 専門学校令発布

本年三月二十七日、勅令第六十一号により専門学校令が発布され、高等の学術、技芸を教授する学校は専門学校とされた。これには官立学校と文部大臣の認可を受けた公、私立学校が含まれ、いずれも修業年限は三年以上と定められた。この法令により、千葉・仙台・岡山・金沢・長崎の各医学校、東京外国語学校、東京音楽学校および本校は官立専門学校となった。なお、この法令は昭和二十二年学校教育法の公布によって廃止される。

③ 沼田一雅と陶像研究

沼田一雅は「東京美術学校旧職員履歴書」によると明治六年福井に生まれ、満六歳のときから父に彫刻を習い、明治十九年に兵庫県品評会へ写生像置物を出品して銅賞を受賞。翌二十年奈良へ遊学し、東大寺法華堂不動尊を模造。同二十四年一月修業のため上京し、同年二月以降六ヶ月間、竹内久一の奈良古美術模刻に従い、同年十月から一年間、岡崎雪声に蠟型を学び、翌二十五年十一月から二年間、竹内久一に彫刻を学んだ。彫刻競技会や日本美術協会に出品して受賞を続け、二十七年九月に本校鑄金科蠟型教場助手となり、二十九年四月に助教教授に昇格。三十三年パリ万国博で金牌を受け、一躍名を馳せた。

一雅はもと大阪天王寺畔の焼物屋の息子で、道端で土いじりをし

ているのを通りかかった竹内が見つけ、才能を見込んで東京へ伴れてきて修業させたという。この話は正木直彦著『回顧七十年』所収「沼田一雅と陶像とメダル」の冒頭に記されており、今日これが定説となっている。しかし、一雅を発見したのは海野美盛だという説もある。こちらは一雅がパリ万国博で金牌を受賞した際、『中央新聞』（明治三十三年十月八日）に掲げられた「金鐘青年彫刻家（二）沼田一雅」と題する記事で、これによると、一雅の父一珍は福井藩士であったが、維新後大阪に移って商業を試みて失敗し、京都に移り、池田清助に陶土を分けて貰って拵りものを作って生計をたてた。一雅は父の手伝いをしていううちに才能を発揮し始め、十五歳のとき父と大阪に遊び、千日前で象を見、これを作ったところ、よく出来て大阪博物館に陳列され、大賀可楽に激賞された。そして、

「其の翌年また奈良に遊び三月堂の不動を模造せり 時に海野美盛たま／＼京都に遊び一雅の伎倆凡ならざるを知り共に上京せむことを勧めしかとこの時は一雅すでに一家の生計を助けつゝありしかばその事果さず その翌十七歳に至りて初めて志を決して京都を辭し東京に來りて美盛に依り幾ばくもなく竹内久一に就きて學びまた之に従ふて奈良に行き居ること一年ばかり大に奈良朝の彫刻を研究するを得たり」

という。海野美盛は明治二十二年前後四年間、「山城大和紀伊ヲ歴遊シ古社寺之国宝及正倉院御物之拝觀ヲ許可セラレ研究」し、その間京都で一年余り小倉惣次郎に洋式油土彫刻を、今尾景年に四條派